

クラウドコンピューティングサービス「U-Cloud®」

システム基盤「AtlasBase®」

Javaアプリケーション開発標準「Maia®」

株式会社 有斐閣 様

日本ユニシスとのレベニューシェアでプロジェクトを推進し、機能拡張を見据えた電子書籍サービス『有斐閣YDC1000』を『Maia®』で構築



鈴木 道典 氏

株式会社有斐閣 取締役 電子メディア開発室長



吉清 恵一

日本ユニシス サービスインダストリー事業部
ビジネス一部長



大河原 雅宏

日本ユニシス サービスインダストリー事業部
ビジネス二部 第三プロジェクト 主任

システムの概要

システム名称:『有斐閣YDC1000』

システム概要:『AtlasBase®』の『Maia®』を活用して開発された定額制読み放題の電子書籍選集閲覧サービス

開発期間:要件定義後、約4カ月

会員数:2,000名(2012年4月予定)

USER PROFILE

設立:1877年(明治10年)

資本金:4億5,000万円

従業員数:100名

所在地:東京都千代田区神田神保町
2丁目17番地

事業内容:出版(社会科学・人文科学関係の書籍、雑誌、六法、辞典など)

開発の背景

- 1999年からいち早く電子書籍化に取り組み、法律雑誌のDVD販売や、2004年開始のオンライン判例検索システム『Vpass®』で成功を収めていた
- 2008年、専門書や学術書に特化した電子書籍のビジネスモデル『叡智の海』構想が電子ペーパーアイデアコンテストで優秀賞を獲得。電子書籍ビジネスの本格展開に向けた検討を開始
- 日本ユニシスがクラウド型電子図書館システムの紹介に来社。これをベースに『叡智の海』実現をめざした

選定理由

- 『叡智の海』のコンセプトに共感してもらい、レベニューシェアやスモールスタートといった提案で、プロジェクト推進の壁となった課題をうまく吸収してくれた
- AtlasBase、Maiaなどシステム基盤ソリューションが豊富で、商用サービスを手掛けた実績も多かった

導入の効果

- 法律の研究者や実務者が24時間インターネットを介して利用できる電子書籍閲覧サービスを実現
- 専門書の利用者に特化した利便性を追求し、先人・著者・編集者の『叡智』を借りて、効率よく書籍を検索できる業界初の検索機能を実装。定額制読み放題のサービス提供スタイルも好評
- 2012年3月末まではプレオープンながら、1月末時点で約500名の会員を獲得。4月までに2,000名をめざす

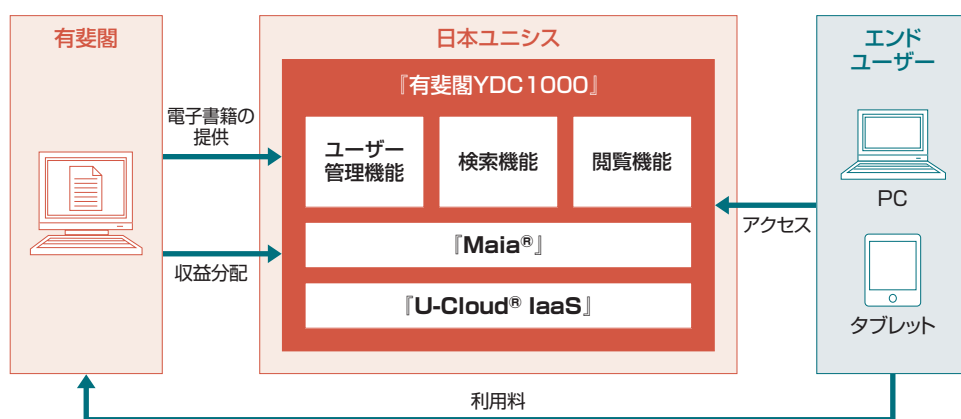
今後の展望

- ビジネスパートナーである日本ユニシスとともに、機能追加や新規会員獲得など、『有斐閣YDC1000』と一緒に育てていく
- 法人や大学など、団体向けのサービスメニューや機能を追加
- 法律書・法学書だけでなく、政治学・経済学などの社会科学、社会学・心理学などの人文科学の分野もカバーしていく

事例のポイント!

- 利便性を追求し、専門書領域の電子書籍閲覧サービスを定額制読み放題で提供
- 市場の現状と将来を見据え、レベニューシェア&スモールスタートで着手
- 初期投資を抑え、将来の成長にも柔軟に対応できる『U-Cloud®』を採用
- 今後の機能拡張を高品質・短期間で効率よく行うため、AtlasBaseのMaiaを採用

システム概要図



株式会社 有斐閣 様



開発の背景

電子書籍の専門書領域における可能性を顕在化するモデルサイトを構築したい

1877年の創業当初から、法律書を中心とする出版を手掛けてきた有斐閣様。電子書籍事業の開始も1999年と早く、DVDによる書籍発行やオンラインでのコンテンツサービスも行い、同社の重要な収益の柱となっている。

そして2008年、電子ペーパーアイデアコンテストで発表した、専門書に特化した電子書籍のビジネスモデル『叡智の海』が優秀賞を獲得。「出版関連各社からも高く評価されたことから、2010年、『叡智の海』実現に向けたモデルサイト構築の検討を開始しました」と、取締役 電子メディア開発室長の鈴木道典氏は語る。



一方、日本ユニシスは2010年初頭から、デジタルコンテンツを軸にした新たなビジネスの可能性を検討。その第一弾として、電子図書館システムを出版関連各社に紹介していた。「日本ユニシスから紹介され、使いやすいと感じたことから、2010年7月に、これを使って『叡智の海』実現に取り組むことを決めました」(鈴木氏)

選定理由

多くの課題を解決する的確な提案力と豊富な実績に基づく開発力を評価

ところが検討を重ねた結果、『叡智の海』に必要な機能は、新規構築の方が、より発展性の実現できるという結論に至った。そこで両社は、改めて白熱した議論を展開。日本ユニシスの吉清恵一は、「専門家の仕事環境を改善する変化をわれわれの技術で支援できることに意義を感じ、有斐閣様のパートナーとして、ぜひとも『叡智の海』を実現しようと、メンバー全員で知恵を出し合いました」と言う。こうして日本ユニシスは、共同運営ビジネスモデルの『レベニューシェア型ビジネス』を提案。さらに、初期コストを抑えて投資効果を上げるために『スモールスタート』を検討し、ICT環境に日本ユニシスのU-Cloud IaaS、アプリケーション開発標準にシステム基盤AtlasBaseのMaiaを採用。このプランが同社役員会で了承され、2011年8月から詳細設計がスタートした。



今回、日本ユニシスをパートナーに選んだ理由を、鈴木氏はこう話す。「『叡智の海』実現への熱意を感じたこと。技術も実績も豊富で、必ず実現してくれると期待できたこと。実際、新事業開発に慎重な役員もいるなかで、レベニューシェアとスモールスタートは、非常にありがたい提案でした」

導入の効果

約4カ月で、専門書に特化した定額制の電子書籍閲覧サービスサイトを構築

2011年12月、『叡智の海』実現に向けた第一歩として、電子書籍選集閲覧サービス『有斐閣YDC1000』がスタートした。当初は法律系の絶版本や昭和に刊行された同社の良書を収載。

「専門書検索の利便性を両社で追求した結果、研究者や実務者が、研究や執筆、問題解決の糸口を調査したいときに、効率よく利用できるものになっています」と、日本ユニシスのSE、大河原雅宏は語る。

利用は定額会員制で、インターネットを介して、すべての書籍が24時間読み放題。2012年3月末まではサービスを無償提供し、4月1日に正式オープンして有償サービスを開始する予定だ。会員数は、2012年1月末時点で約500名。4月までに2,000名をめざしている。



今後の展望

5年以内の『叡智の海』構想実現をめざし、『有斐閣YDC1000』の機能強化を推進

同社と日本ユニシスでは現在、利用者から寄せられた要望への対応を始め、新規会員獲得に向けた活動を積極的に展開。今後も『有斐閣YDC1000』で得た収益をもとに、利用者の利便性を高めるサービス強化のほか、他の出版社が参加したくなる機能追加、さらには同社内向けに新刊の企画、営業、販売を支援する仕組みも実現する計画だ。

「まずは『有斐閣YDC1000』として機能を充実させ、4~5年後には日本ユニシスと『叡智の海』構想を実現させたいと考えています」(鈴木氏)

日本ユニシス株式会社

本社 東京都江東区豊洲1-1-1
電話 03-5546-4111(大代表)
URL <http://www.unisys.co.jp/>

事例インタビューの全文はこちら

<http://www.unisys.co.jp/services/atlasbase/case.html>